

妊娠、甲状腺機能低下症、亜臨床的甲状腺機能低下症、スクリーニング1

甲状腺機能低下症と判定された女性から誕生した児においてIQの平均値が低値を示したと報告された。ACOGは一律にスクリーニングを行うことには反対し女性の状態を勘案しスクリーニングを行うことを勧めている治療を試みなかった場合、亜臨床的甲状腺機能障害とは対照的に、顕性甲状腺機能低下症は母児にネガティブな問題をもたらす。顕性甲状腺機能低下症を検知するために一律にスクリーニングを行うことに疑問も指摘されている。

本号にGranforsらは妊娠17～19週においてルーチンに採取された血液を検査した結果を報告している。GranforsらはTSHが高い女性の82%がスクリーニングで検知されなかったと報告している。亜臨床的甲状腺機能低下症の治療を支持する根拠を得られるならば、一律のスクリーニングが好ましいが、現在のところACOGの勧告が妥当である。顕性甲状腺機能低下症が7例新たに発見されたが、理論的にはさらに29例が検知されることになる。標的を絞って甲状腺のスクリーニングを行っても顕性甲状腺機能低下症の妊婦の85%超を検知できる。現在のところ対象を絞ったスクリーニングが最上のアプローチではないかと思われる。

The Debate on Thyroid Screening During Pregnancy Continues

Brian M. Casey

Obstet Gynecol. 2014 Jul;124(1):8-9

【文献番号】o03800 (妊娠合併症、内分泌疾患、偶発疾患、悪性腫瘍、血栓症、薬剤、STD)

妊娠、甲状腺機能、顕性甲状腺機能低下症、亜臨床的甲状腺機能低下症、スクリーニング3

甲状腺機能のチェックが必要と判定された標的群の女性と検査の適応と判定されなかった非標的群において妊娠時期に特異的な基準値を用いて調べたところ、TSHが上昇し顕性甲状腺機能低下症と判定された妊婦の割合はほぼ等しかった。臨床の場において検査の対象となる患者を選別し甲状腺テストを行ったとしても満足すべき結果は得られないと判定された。もし、TSHレベルの上昇をみた妊婦において治療をすべきということを支持する結果が得られたならば、一律に甲状腺テストを施行することが最も妥当なアプローチであると思われる。

Targeted Thyroid Testing During Pregnancy in Clinical Practice

Michaela Granfors, Helena Akerud, Johan Skogo, Mats Stridsberg, Anna-Karin Wikstrom, Inger Sundstrom-Poromaa

Obstet Gynecol. 2014 Jul;124(1):10-15

【文献番号】o03800 (妊娠合併症、内分泌疾患、偶発疾患、悪性腫瘍、血栓症、薬剤、STD)

生下時体重、発育曲線、最終月経、超音波検査所見5

アメリカにおける生下時体重の基準値は最終月経から判定した妊娠週数に基づいて作成されているが、今回、超音波検査のデータも加味した妊娠週数に基づいて新たな生下時体重の基準値を示した。

A Revised Birth Weight Reference for the United States

Elaine L. Duryea, Josiah S. Hawkins, Donald D. McIntire, Brian M. Casey, Kenneth J. Leveno

Obstet Gynecol. 2014 Jul;124(1):16-22

【文献番号】o11500 (産科統計、妊娠関連事項、分娩関連事項)

妊娠、葉酸、サプリメント、自然流産、死産、リスク因子7

葉酸のサプリメントとしての摂取量の上昇は自然流産のリスクの低下と相関した妊娠の可能性のある女性は神経管欠損の予防のために葉酸をサプリメントとして摂取すべきで、自然流産のリスクを低下させることにもなる。

Maternal Prepregnancy Folate Intake and Risk of Spontaneous Abortion and Stillbirth

Audrey J. Gaskins, Janet W. Rich-Edwards, Russ Hauser, Paige L. Williams, Matthew W. Gillman, Elizabeth S. Ginsburg,

Stacey A. Missmer, Jorge E. Chavarro

Obstet Gynecol. 2014 Jul;124(1):23-31

【文献番号】o12400 (妊娠、代替療法、漢方、生薬、サプリメント、市販薬)

骨盤位、外回転、鍼治療、灸治療、無作為対照試験10

妊娠第3半期において骨盤位と診断された患者において、胎位を回転させる目的で灸療法と鍼治療を試みたが有用性は認められなかった。

Version of Breech Fetuses by Moxibustion With Acupuncture: A Randomized Controlled Trial

Capucine Coulon, Marion Poleszczuk, Marie-Helene Paty-Montaigne, Cecile Gascard, Charlotte Gay, Veronique Houfflin-

Debarge, Damien Subtil

Obstet Gynecol. 2014 Jul;124(1):32-39

【文献番号】o04400 (回旋異常、骨盤位、横位、後方後頭位、低在横定位、CPD、巨大児、骨盤計測)

妊娠急性脂肪肝、DIC、凝固障害、溶血11

妊娠急性脂肪肝に伴う止血機能障害は分娩後4～5日間持続し、前駆凝固因子の産生の低下と臨床的に有意な溶血を伴ったDICの持続をもたらすことが確認された。

Hemostatic Dysfunction With Acute Fatty Liver of Pregnancy

David B. Nelson, Nicole P. Yost, F. Gary Cunningham

Obstet Gynecol. 2014 Jul;124(1):40-46

【文献番号】 o02300 (HELLP 症候群、肝機能障害、急性脂肪肝)

未熟児、早期臍帯結紮、遅延臍帯結紮、臍帯ミルキング法15

今回のメタアナリシスの結果からみて、臍帯のクランプを遅延させるか、あるいは臍帯のミルキングによって、児に血液の還流を促す方法は早期臍帯クランプ法よりも新生児の臨床結果に良い影響をもたらす新生児死亡率は低下し、脳室内出血のリスクも低下し、輸血の頻度も減少するという結果が得られた。直ちに蘇生が必要となる新生児において適切な臍帯のクランプは何かという点に関してさらに検討が必要である。

Placental Transfusion Strategies in Very Preterm Neonates: A Systematic Review and Meta-analysis

Carl H. Backes, Brian K. Rivera, Urbee Haque, Jeffrey A. Bridge, Charles V. Smith, David J. R. Hutchon, Judith S. Mercer

Obstet Gynecol. 2014 Jul;124(1):47-56

【文献番号】 o10300 (周産期関連事項)

分娩第2期遷延、新生児合併症、母体合併症19

分娩第2期の遷延をみた場合、母体と児におけるリスクはわずかながら上昇するが、経膈分娩の割合を上昇させるという点も考慮し分娩第2期の長さを考えてみる必要がある。

Neonatal and Maternal Outcomes With Prolonged Second Stage of Labor

S. Katherine Laughon, Vincenzo Berghella, Uma M. Reddy, Rajeshwari Sundaram, Zhaohui Lu, Matthew K Hoffman

Obstet Gynecol. 2014 Jul;124(1):57-67

【文献番号】 o04300 (難産、分娩停止、陣痛促進、肩甲難産、骨盤計測)

腹腔鏡下卵管結紮術、術後疼痛、局所麻酔24

腹腔鏡下卵管結紮術を施行する際に卵管結紮部位あるいはその周囲に局所麻酔剤を用いることによって術後8時間まで疼痛のレベルを低下させることができる。

Reducing Postoperative Pain After Tubal Ligation With Rings or Clips: A Systematic Review and Meta-analysis

Margo S. Harrison, Marianne N. DiNapoli, Carolyn L. Westhoff

Obstet Gynecol. 2014 Jul;124(1):68-75

【文献番号】 g07560 (麻酔、術後疼痛管理)

HPV ワクチン、キャッチアップワクチン、思春期女性、若年女性27

キャッチアップスケジュールに基づいてHPV ワクチンの接種を受けた思春期女性および若年女性において、予定のワクチンの接種を完了するものは少なかった。妊娠に至った女性においては妊娠後にワクチンの接種を受けるものは少なかった。ワクチン接種の開始は思春期女性や若年女性において避妊を実施する機会と考え対応する必要がある。

Factors Associated With Human Papillomavirus Vaccination Completion on a Catch-Up Schedule

Rachel Perry, Kristin Rankin, Miao Crystal Yu, Bryna Harwood

Obstet Gynecol. 2014 Jul;124(1):76-81

【文献番号】 g02400 (子宮頸部上皮内病変、ワクチン、スクリーニング)

先天奇形、超音波検査、核型分析、microarray、コピー数多型28

胎児奇形が超音波検査で検知された場合、microarray による染色体検査によって核型分析以上の情報を得ることができるが臓器によって異なる。

Association of Copy Number Variants With Specific Ultrasonographically Detected Fetal Anomalies

Jennifer C. Donnelly, Lawrence D. Platt, Andrei Rebarber, Julia Zachary, William A. Grobman, Ronald J. Wapner

Obstet Gynecol. 2014 Jul;124(1):83-90

【文献番号】 r09100 (染色体異常、遺伝子異常、妊孕性、先天奇形、imprinting disorder)

先天奇形、超音波検査、死産、胎児発育不全32

共存する胎児発育不全の有無にかかわらず、死産率は奇形を有する児において上昇した。このような知見は死産や新生児死亡のリスクの上昇を招く奇形を有する胎児の治療計画を立てる上で有用である。

Stillbirth Risk Among Fetuses With Ultrasound-Detected Isolated Congenital Anomalies

Heather A. Frey, Anthony O. Odibo, Jeffrey M. Dicke, Anthony L. Shanks, George A. Macones, Alison G. Cahill

Obstet Gynecol. 2014 Jul;124(1):91-98

【文献番号】 o09100 (先天奇形、先天性疾患、新生児スクリーニング、リスク因子、放射線障害)

分娩、帝王切開、妊孕性、リスク因子、分娩回数35

帝王切開を受けた女性においてはその後に出産する尤度は低下し、帝王切開の回数が増えるにつれ尤度はさらに低下した。しかし、この相関は低所得者の女性においては低下した。帝王切開と相関する複数のリスクを考慮し、帝王切開に伴う出産の尤度の低下についてさらに検討してみる必要がある。どのような要因が帝王切開後の出産の尤度の差異を、特に経済的な問題に関わる差異をもたらしつかという点について検討してみる必要がある。

Likelihood of Continued Childbearing After Cesarean Delivery in the United States

Lisa M. Masinter, Joe Feinglass, William A. Grobman, Melissa A. Simon

Obstet Gynecol. 2014 Jul;124(1):111-119

【文献番号】 o06400 (帝王切開、合併症、VBAC、試験分娩、リスク因子、子宮破裂、子宮摘出)

妊娠合併症、妊娠性肝内胆汁うっ滞、管理法、病因、文献的レビュー37

妊娠性肝内胆汁うっ滞は最もよく認められる妊娠に伴う肝疾患で、通常妊娠第3三半期に認められ、掻痒感、肝機能障害、血中胆汁酸のレベルの上昇を伴うものである。妊娠性肝内胆汁うっ滞は自然早産、医原性早産、胎児心拍異常、胎便汚染、死産などのリスクを高める。経産婦、IVF による妊娠、高年齢の女性において妊娠性肝内胆汁うっ滞のリスクは上昇する。その病因は複雑で、ホルモンの影響、遺伝的要因、ビタミン欠乏などが誘因となる。治療にはウルソデオキシコール酸が使用され、母体の症状の改善と胆汁酸のレベルの低下がはかられる。妊娠性肝内胆汁うっ滞の管理法や薬物療法などの有用性を確認するためにはさらに研究が必要である。

Intrahepatic Cholestasis of Pregnancy

Catherine Williamson, Victoria Geenes

Obstet Gynecol. 2014 Jul;124(1):120-133

【文献番号】 o02300 (HELLP 症候群、肝機能障害、急性脂肪肝)

原発性卵巣不全、病因、診断、治療、思春期、若年女性41

原発性卵巣不全は卵胞の枯渇あるいは機能不全で40歳未満で月経が停止したものである。思春期の女性において原発性卵巣不全を特定する基準にはコンセンサスが得られておらず診断の遅れがしばしば認められるこの臨床診断を下すヘルスケア提供者は本疾患の微妙な状況を十分に認識しておく必要がある。患者とその家族は患者の状況が将来の妊孕性に及ぼす影響や原発性卵巣不全に関わる共存症のリスクについて、さらに本疾患が遺伝的な病因を有していることなどについてのカウンセリングが必要である。自尊感情の障害や心理的な苦痛などが原発性卵巣不全の診断後に報告されていることから、心理的カウンセリングもまた提供されなければならない。

原発性卵巣不全と診断された場合、少なくとも年に1度は検査を受ける必要がある。ホルモン療法の目的は単に当面の症状の改善をもたらすことだけでなく、骨密度の維持、心血管障害の抑制、性生活に関わる健康上の問題の改善にも関わってくる。患者とその家族が生殖に関わる治療の可能性についての話し合いを望んだ場合には生殖内分泌や不妊症の専門家に紹介しなければならない。

Committee Opinion: Primary Ovarian Insufficiency in Adolescents and Young Women

Obstet Gynecol. 2014 Jul;124(1):193-197

【文献番号】 r12160 (早発閉経、月経異常、月経困難症、不正出血、月経前症候群、アッシャーマン症候群)
